

V65c 中国西部域サイト調査 2009 (II改) - チベット・オマ地区での調査

佐々木敏由紀、三上良孝、吉田道利、大島紀夫、岡田則夫、小矢野久、安藤裕康 (国立天文台)、姚永強、劉立勇 (中国国家天文台)

中国西部域は経度 75-100 度に位置し、汎地球的天体観測網を構築する上で重要な地域でありながら、天体観測環境についての情報が欠落している地域である。中国西部域での天体観測環境を明らかにするために、我々中国国家天文台と国立天文台のグループは共同で天体観測サイト調査を 2005 年度より行っている (日本天文学会 2005 春、2007 年秋、2008 年春/秋、2009 年春)。

現在中国西部域二カ所に天体観測基地を開設し、天体観測条件の調査を進めている。新疆ウイグル・カシュガル市南西にある標高 4500m のカラス地区および 2008 年 11 月からチベット西部域にあるオマ地区 (標高 5000m) において、中間赤外線カメラを検出器とした雲モニター装置、気象ステーション、微熱乱流計測装置 (CT2 装置) を用いたサイト調査を進めてきている。

2009 年 10 月には、2008 年 11 月から 2008 年 8 月までのチベット西部域にあるオマ地区でのサイト調査データを回収し、その解析を進めた。オマ地区で中国気象衛星 FY2 による雲画像との比較を試みる。また、カラス地区での中国気象衛星 FY2 による雲画像も評価する。

さらに、サイト調査を一步踏み出し、インド国境沿いの場所に中小口径望遠鏡を設置する提案が中国側からなされている。候補地の中国西部アリ地区の概況についても報告する。